

宣教師型^{*}から参加型^{*}への変身（変心）

はじめに

過去を振り返りながら、何故宣教師型から参加型に変身（変心）しようとしたかを振り返ってみます。

筆者は勤務臨床獣医師として臨床生活15年を経験し、平成7年の春に「酪農コンサルタント」として独立開業（開業獣医師）をしました。乳質改善の専門家として、全国の酪農家のもとを訪れており、診療活動は行っていません。しかし、いつの頃からか何か仕事が上手く行かない状況になってしまいました。今から思い出せば開業後10年くらいを経てからでしょうか？その頃から酪農家の規模拡大のスピードも上がり、法人として企業的に行う酪農家が増えてきていました。

私が開業当初は搾乳牛100頭位を飼っていれば大きな酪農家でした。ところが、今になっては300頭以上を飼っていないと大きな酪農家とは言えないような状況です。100頭位までは家族経営で行える規模であり、従業員もいませんでした。従って、酪農家のお父さんに（オーナー）に、牛の事、機械の事、施設の事などの酪農場の問題点の話をすれば家族全員に伝わり、多少遅くとも問題点は解決できたように思われます。アドバイスの内容も酪農家が経験したり、直接牛を扱っていたりするので、細かく説明しなくとも伝わる内容でした。共に酪農での仕事が長いので、基礎的知識に共通認識（経験・学習）があり、詳しい説明をしなくとも私の説明の背景が伝わりました。

牛の問題から人の問題へ

酪農が企業的酪農になってくると様相が異なりました。オーナーに農場の問題点の話をするのは勿論の事、従業員にも問題点の話をしないと解決はできません。直接牛に接し、牛の世話をしているのは従業員だからです。同じ作業をしていても、理論が理解できている作業と、只言われてする作業ではその中味（精度）が異なります。何のためにその作業をするかが重要なのです。例えば、TMRの作り方が悪い事が乳房炎を作る。TMRの作り方と乳房炎の間には、順序立てた過程があり、その過程を理解できないとTMRと乳房炎が頭の中で結びつきません。酪農家には「餌が悪ければ乳房炎は出るでしょう」の一言で理解してもらえるのですが、従業員にはその過程を理解させないといけないし、理解できるように伝えなければいけません。ここにコミュニケーションの問題が大きく出現します。問題が規模拡大と共に、牛から人の問題に変わってきたのです。当初は時間を掛けて従業員に説明をしましたが、仕事で疲れており、居眠りをする人、理解できない人が散見されました。つい「何故判らないのだ」と声を荒げる事もありました。内容が理解できていないので、問題の解決はいつまでもできません。それは牛にいつも接しているのは従業員だからです。

コーチング 参加型との出会い

こんな事をおぼろげながら考えている時に、NDK（農場どないすんねん研究会）との出会いがありました。研究会主催のワークショップに出席し、「体験しながら学ぶ」とか、「自分の事は自分で決めたい」などの事を学ぶに連れて、これが何か問題を解決できる手法かもしれないと思えるようになってきました。その中でコーチングの岸氏との出会いがありました。セミナーの内容は言葉では理解できましたが、何かモ

ヤモヤしたものが残りました。岸氏の執筆本（文献参考）を読んでみると、まさに今の状況を解決で来そうな事が書いてありました。

N D Kと岸氏との出会いをきっかけに、参加型手法を実践してみました。仲間のやり方をまねたり、独自で考えたりしながらまずは実践。この手法を取り入れながら、ワークショップを開催すると寝る人が出ません。皆多くの発言をし、顔つきが最初と最後では異なります。笑顔になる人が多くあります。ワークショップ終了後に感極まって、泣き出した人もいました。理由を聞いてみると、子供の頃酪農家になって〇〇夢を実現したい自分がいたはずが、いまはそれがない。今子供の頃の自分を思い出し、今まで何をしてきたか考えると涙が出るとの事でした。

他人と過去は変えられない。未来と自分は変えられる^{}**

初めの頃は改善行動しない酪農家に問題があると思っていたが、やはり自分のやり方に問題があるのではないかと思うようになってきました。酪農家を変えるには、まずは自分自身が変わる事が重要と仲間より習いました。「他人と過去は変えられない。未来と自分は変えられる」の言葉のように、自分自身を変えようとしてみました。

例えば家庭教師です。今までは勉強の解き方を教えていました。しかし応用問題になると解けない、その内勉強する事自体がいやになる。これでは成績は上がりません。

本当の家庭教師は、勉強の解き方ではなく、勉強のおもしろさを教え、この勉強がしたいと思わせる（意識改革）事です。勉強がおもしろくなるのですから、自ら進んで勉強をするようになり、難関の大学も合格するようになります。教え方（内容）を変える事が、酪農家が変わる事に繋がります。

酪農コンサルタントは、酪農家を変えないといけない仕事です。なかなかしない事をさせる、面倒くさい事をさせる、記録をさせるなど、酪農家自身の意識を変えてもらわない成功しない仕事です。酪農家自身が意識を自分で変える事はなかなかできないし、他人の圧力によって大きく変わるものではありません。自身の中の気づきや心の葛藤の中から変身します。自分から変えるような気持ちがあき上がるかが重要です。この手助けをするのが、今の仕事でしょうか。

(連載第1回2009年4月号参考 ^{**} 連載記事第2回参考)

参考文献

ザ・ファシリテーター 1, 2	森 時彦	ダイヤモンド社
続・入門社会開発	プロジェクト PLA	国際開発ジャーナル
あなたの熱意はなぜ伝わらないのか	岸英光	かんき出版
エンパワーメントコミュニケーション	岸英光	あさ出版
コーチング・センスが身につくスキル	岸英光	あさ出版
壁を突破するコーチング	橋本文隆	岸英光あさ出版
プロカウンセラーの聞く技術	東山紘久	創元社
農場を上手くやる方法	山本 浩通	デーリィジャパン社